延藤吉兵衛

のぶとう・きちべえ

備後・府中町長、備後報徳社社長

経　歴

生：明治6年（1873年）5月1日、備後・府中町下本町生まれ

没：昭和40年（1965年）12月21日、享年93歳

―	―	晩香館で学ぶ
明治25年（1892年）	18歳	尋常中学福山誠之館卒業（第4回卒業生）
―	―	第三高等学校（第三高等中学校改称）卒業
明治32年（1899年）	26歳	備後銀行（今の広島銀行）の創設に尽力する
明治42年（1909年）	36歳	備後報徳社の理事社長
大正3年（1914年）	41歳	両備軽便鉄道（今の福塩線）の開設、運営に尽力する
大正8年（1919年）～ 昭和9年（1934年）	46～ 47歳	備後銀行初代頭取（25年間）
大正8年（1919年）1月～ 大正9年（1919年）3月	46～ 47歳	府中町長（第11代）
大正14年（1925年）2月～ 大正14年（1925年）5月	52～ 53歳	府中町長（第14代）
昭和9年（1934年）	61歳	備後銀行の営業権を芸備銀行へ譲渡

生い立ちと学業、業績

生い立ち

延藤吉兵衛（第7代）、本名は重醇（しげあつ）、幼名を岩松、中年には奨、春堂・酔堂を号した。
延藤家では、代々の当主が吉兵衛を名乗った。

学業

幼少時代を私塾の晩香館で勉学にいそしむ。
明治20年（1887年）新発足した尋常中学福山誠之館に入学、明治25年（1892年）第4回目の卒業生。
京都第三高等中学校に合格した。

卒後家の商売を継ぐため帰郷した。
帰郷したものの向学心に燃える重醇は、結婚後再び上京した。
そして福沢諭吉に会い、色々と身の振り方を相談している。
諭吉は親切に相談に乗った。
重醇の学歴を見て、これ位勉強していれば十分である。
家に帰り家業を継ぐが良いと諭され重醇は帰郷した。
しかし読書欲は衰えず洋書を漁り漢書を読破した。
90才近くになっても英会話の勉強をしていたという。
今でも延藤家の倉庫には、重醇の集めた漢文書、洋書がおびただしく納まっているという。

画は藤井松山の高弟として一家をなした。

備後府中財界の重鎮
家業のかたわら、地域の発展のためにつくした。

山陽線が福山まで開通したのは明治24年（1891年）9月、広島まで通じたのが明治27年（1894年）6月であった。
山陽道をはずれて山間部に位置する府中の不便さを解消すべく、明治28年（1895年）大戸復三郎を中心に岡山、福山、府中において知名の士各25名が発起人となり、両備鉄道株式会社が設立された。
府中における主役は延藤重醇らであった。
この鉄道は現在の福塩線であるが、戦争や用地買収等の問題や経済変動の波により一時は中断かと思われたが、明治44年（1911年）福山の河相三郎が社長となり両備軽便鉄道として再スタートし、大正3年（1914年）7月遂に竣工した。
府中の延藤重醇は熱心な推進者の一員であった。

当時府中町は産物の加工地として発達しており、生産加工品の販売活動は活発であった。
これらの商工業者を対象とする金融機関として、明治32年（1899年）備後銀行が誕生した。
設立当初は2人の専務取締役を置いていたが、延藤重醇は明治43年（1910年）専務取締役に就任し、大正8年（1919年）頭取制を敷くと同時に初代頭取となり、昭和9年（1934年）芸備銀行（現広島銀行）に営業権を譲るまで25年の間両備銀行を運営し、府中周辺の商工業者や、地方の産業の発展に尽力した。
明治42年（1909年）7月、府中に公益慈善事業、興風奨善事業、勧学教育の作振等を目的として、社団法人備後報徳社が設立された。
延藤重醇は理事社長として就任し、二宮尊徳の報徳の精神を継承しつつ、周辺の集落にも報徳結社の普及を図っていった。
そのうちの育英事業の貸出しで恩恵を蒙った人は多数あり、社会に有為の人材を多く送り出した。
しかし第二次大戦後は社会情勢も変わり活動は休止し、昭和62年（1987年）解散し、その使命を終え幕を閉じた。

また延藤重醇は、大正8年（1919年）～大正9年（1920年）の間第11代府中町長に就任して

いる。
そして大正14年（1925年）再び第14代の府中町長に就任し、短期間であるが町の行政を行っている。

延藤家は古くから土地建物を地元に寄付したり、庄原までの道路を作ったりして府中との関わりは深い。
大正時代府中図書館があり、一時府中夜間中学校として利用されたこともあったが、建物は延藤家のものを提供し、図書も延藤氏が管理した。
また長い間府中八幡神社の氏子総代を勤め、同神社及び明浄寺に山林及び田地を寄進している。
延藤重醇の大きな寄付は府中町公会堂である。
用地及び建築費用一切を寄付し昭和7年に完成した。
しかし戦後間もない昭和20年（1945年）9月に発生した台風で芦田川が氾濫し壊れてしまった。
今はこの敷地に児童会館が建てられ、川面に美影を投じている。
また府中公園内にある忠霊塔付近の敷地も延藤重醇の寄付によるものである。

公共の為に私財を惜しげもなく投じ、明治、大正、昭和と92才の長寿を保ちながら、産業、金融、公共慈善事業、文化、行政と府中市の発展に尽くした延藤吉兵衛重醇の功績は大きい。

延藤家
延藤家は代々素封家として知られ、第2代の延藤吉兵衛の時には、福山藩主5代阿部正精から書を拝領しており、第3代吉兵衛は、7代藩主阿部正弘より自作の詩と時服（季節の衣服）を賜っている。

氏に子がなく、福山神島町下市高戸稲治の四男艮亮を迎え嗣子とした。　　市川卓治（昭和30年卒）

出典1:『府中人物誌』、36・74・80・147頁、楠務編、中国観光地誌社刊、昭和45年4月1日

関連資料1:『府中人物伝（下）』

2005年6月2日更新:経歴・本文●2006年3月31日更新:タイトル●2008年2月15日更新:経歴・本文●2009年12月28日更新:経歴・本文・出典●2010年1月4日更新:タイトル●